

2005年2月

TODA オールネット

www.toda-oar.net

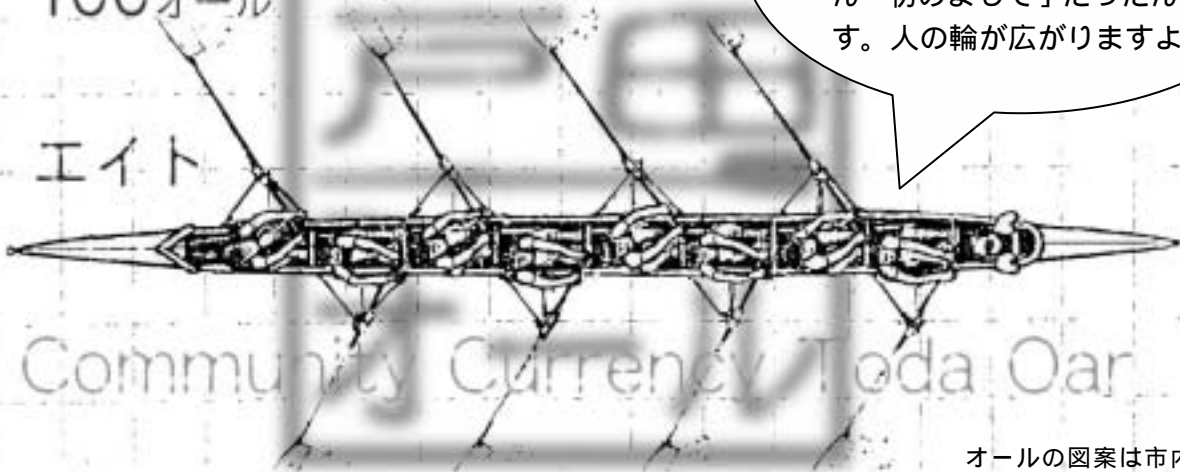
3号

～出会い ふれあい 支え合い～

地域通貨 戸田オール
100オール

エイト

Community Currency Toda Oar



気軽に、楽しみながら、無理をしないで、一緒にやってみませんか。運営委員も皆さん「初めまして」だったんです。人の輪が広がりますよ。

オールの図案は市内在住の版画家・高橋シュウさんによるものです。

TODA オールネットとは……

戸田市内全域を対象に行う地域通貨戸田「オール」の試験運用を幅広く皆さんに理解していただくために発行するものです。もちろん、それだけではなく各市民活動団体の活動状況、また市役所など公的機関からの告知、各地区ごとのちょっとしたニュースをご紹介します媒体です。戸田市役所コミュニティ推進課と各町会の御協力により、市内全戸配布を行います。

私たちは、この「TODAオールネット」が、皆さんの生活をもっと楽しくするような戸田市のタウン紙になるよう頑張ります。

地元（戸田）のお店で買い物ができて、地元のカフェでお茶やランチができて、地元のイベントやボランティアに参加できて、地元仲間ができる。そう、戸田から出なくても十分楽しめる……そんな毎日になったら、自分のまちがもっともっと好きになるはず。

地域通貨「オール」が、そんな生活の橋渡しをしてくれたらいいなあと思います。
(荒川て)

次号は4月発行予定です

地域通貨戸田オール運営委員会

〒335-0031 戸田市美女木5-2-16

西部福祉センター2階

TEL & FAX 048-421-3709

E-mail: info@toda-oar.net

開設日：水曜・土曜 13時～17時

第3次試験運用を開始します



第2次試験運用は昨年12月をもって終了しました。皆様のご支援に感謝申し上げます。第2次の反省を踏まえ、第3次試験運用を平成17年4月1日から18年3月31日までの1年間で実施します。

今までの試験運用の期間は6ヶ月でしたが、今回は1年間じっくり実施したいと考えています。

希薄となった地域社会の中で地域通貨を仲立ちとして「出会い、ふれあい、支え合い」のある地域社会をみんなで考え築いて行くうえで、その道具として地域通貨戸田オ

ールが皆様のお役に立てることを願っています。

また、パートナーシップによるまちづくりに多くの市民の参画が期待されていますが、こうした市民活動の活性化にも地域通貨戸田オールの役割があるものと思っていますし、こうした活動を通じて地域経済の活性化にも貢献できるようになるのではないのでしょうか。

なお、皆さんお持ちの有効期限が過ぎた10オール券、100オール券は、4月以降新券と交換しますのでその時まで大切に保管して下さい。次期運用期間においても旧券を引換のうえ有効にご活用下さい。詳しくは後日ご案内します。

表1 第2次試験運用実績 平成17年1月28日 現在

発行内容	10オール(枚)	100オール(枚)	
旧券引換	459		
個人会員	1,480	592	74名
法人会員			18社
PR用交付	852	213	
発行プロジェクト	1,410	576	
発行合計	4,201	1,381	

回収内容	10オール(枚)	100オール(枚)	
回収プロジェクト	18	30	イベント等
商店でお買い物	557	275	表2参照
寄付	119	52	3名
回収合計	694	357	

表2 商店会でお買い物 回収状況

商店会名	10オール(枚)	100オール(枚)	換金額(円)
喜沢中央通り	45	14	1,850
さつき通り	405	96	13,650
本町	39	54	5,790
上戸田	48	65	6,980
新曽新田口		38	3,800
美笹	20	8	1,000
合計	557	275	33,070

第2次試験運用の反省と課題

「オール」の第2次試験運用があっという間に終わりました。範囲を戸田市全域に広げたり、「ふれあい市」を開催したり、この「オールネット」を発刊してみたりとチャレンジはしましたが、いかがだったでしょうか。特に市東部の皆さん、「オール」のこと、耳にしたり、手にとってみたいりされたでしょうか。

個人的には、力がいたらないところばかりが目についた半年でした。正直、まだまだ「オール」を見たことのない人が多いと思います。どうすれば手に入るのか、どのように使えるのか……そんなことを含めて、まずは皆さんに「オール」そのものを知ってもらうことを優先に、これからの第3次試験運用に向かっていきたいと思っています。試行錯誤はまだまだ続くでしょうが、一步一步、前進していきたいと思っています。皆さんの中で「オールって知ってる？」そんな会話が聞こえてくるようになれば、これからもよろしく願います。(荒川ゆ)

半年間というのは、あっという間に過ぎてしまいました。気持ちは常に前向きなのですが、行動が伴わないというか、なかなか前進してくれません。マンパワーが足りない状態で、ちょっと行き詰まってしまった感じです。

「これではいけない！」と自分に喝を入れて考えてみました。私は地域通貨に何を求めているのか？ 地域通貨で何がしたいのか？ 私の答えは…とにかく、地域通貨を持ってここに来れば、何かできる。月1回のイベントの日には何かある。こんな楽しい地域通貨の広場……みたいな場所ができたらいいな～(^_^;)なんてね。夢で終わらせたくないです。(高本)

第2次でも、地域通貨の仲間づくりが思うようにはいかなかった。次期は仲間づくりをどんどんしていきたい。地域通貨で顔の見える関係を大切にしていきたい。(園田)

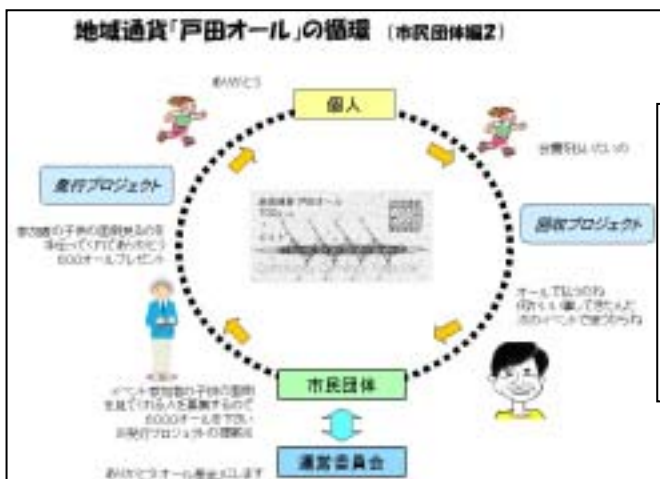
第3次試験運用に向けて ～「オール」がつなぐモノ～

多くの方が市民活動をしています。活動内容は様々ですが、その目的、目指すところは一緒ではないかと思えます。それは「住んでいて良かった」と言えるまち。「安心して住めるまちづくり」を目指すということではないでしょうか。

その手段や立場、好きなこと等から「高齢者」「犯罪」「災害」「自然環境」「子ども」等々があり、市民活動も多岐にわたっています。この団体を行政の「課」が把握しているのが一般的ではないでしょうか。この市民活動を効果的に、有機的に結ぼうとすることが今までほとんどなかったのではないのでしょうか。横のつながり、ネットワークです。

お互いが自分には出来ないことを認識し、出来る人をお願いする。得意分野で協力しあう、そのために、お互いが謙虚になることから次のステップが始まると思えます。単に協力し効果を上げるだけでなく、お互いの信頼関係を築くことを基本に考えると、やり方は色々あると思えます。

地域通貨は道具です。道具の使い方、効果的に使う方法、いままでとは違った使い方などを考えることから「場」を作ることが出来ます。この場をどう活用するのか、出会いの場、ふれあいの場、活用方法を知らせる場、人材発掘の場、地域間交流の場として使うなど、主催者側の考え方ひとつで効果は変わります。算数のように $2 + 3 = 5$ と答えを求めるのか、逆に 5 という答えをどう導き出そうとするのか、その違いではないのでしょうか。使う側が自分たちの「場」でどう使うのか、何のために使うのかを、市民団体それぞれが考えることでもあるのです。便利な道具なら使う。ちょっと不便だけど使ってみようか、全くだめなら使わないと言う選択肢はあるのですから。それが試してみようかということではないのでしょうか。



お互いが立場の違いを理解し、合意することが出来れば、こうなったらいいねと言うことが実現していきます。活動に参加してもらい、理解してもらおう。

そして、一緒に活動してもらおう。と言うきっかけ作りが地域通貨「オール」にはあると思えます。活動に参加してもらうことから、人との出会いがあり、お互いの人柄が分かれば、協力関係や信頼関係にも発展します。つまり、お互いを理解する道具として使えることとなります。立場の違いや、換金性の必要・不要なども、話し合うことからお互いのことが理解出来ます。理解し歩み寄ることから、着地点も決まるのではないのでしょうか。思っていた場所と違うところに着地しても次に繋がります。

目的は何なのか、活動することなのか、ネットワーク・協働することなのか、人間関係なのかを再度確認する必要があります。「手段の目的化」はよく起こることです。どう防ぎながら先に進むのか、目的を忘れないためにどうするのがいま問われているのではないのでしょうか。

まちをどう考えるのか、「住んでいて良かった」と言えるまちとはどんなまちなのか、市民が考え「行政参加」でまちづくりを進めれば、自分たちで作った、自分たちのまちであり、自分たちで守ることに出来るのではないのでしょうか。そのまちに住む人はどんな人たちがいるのか、自然環境では、生物の多様性という言葉もあります。ならば、人間の多様性はないのでしょうか。健常者だけでなく障害者も一緒に住んでいることが当たり前なまち、様々な立場の人々が、互いに理解し一緒に暮らせるまちをつくることは出来ないのでしょうか。道具に使われないうえを付けながら「人の輪」を広げ、仲間とゆっくり、確実に歩みを進めたいと思えます。（森）



「オール」の循環例

どう循環させるのか。仲間作りのために、人と人の出会いの為に、顔の見える商売のために… 使

いは人により違います。

「オール」の柔軟性を活用したいですね。

店主へのインタビュー

ファミリーマート田中上戸田店 店長 田中治夫さん

戸田中央通りで一番活気がある店舗と言われれば誰もが知っているコンビニ。店主の田中さんは少女サッカーチームの監督でもあり、地域活動に熱心な指導者としても有名です。第2次試験運



用でも総額5,490円の交換を行なっています。まだまだ使う側も使い方がよくわかっていない、お店の方も不慣れで理解不足で徹底しないとかえてマイナスイメージになる。ということで、シールを店頭に表示、レジの後ろには店全員で取り組めるよう張り紙もした。店のスタッフ15人全員に理解してもらうことで、お客様の「使えるの?」という質問や不安に即座に応えられるようにしたというところは、さすがに経営者だと感心させられた。受け入れとしては現金と同じにし、手間要らず、店内では100%使えるということで、どこで知ったか常連でないお客(特に主婦と子供が多かったそうです)が来るという宣伝効果があった。お客様が楽に、わかるようにすれば、今度は「どこで手に入れたの?」「どんなボランティアしたの?」といった小さなコミュニケーションの道具にすることで、より地域密着の店舗経営を行ないたい、その意味で「円」より価値があると断言する。

課題とすれば、意識改革が重要で、効果を実感できない店舗ややる気のない店まで巻き込むのは大変で、全加盟店を参加させようとするのは無理かも知れない。わかっている店だけでいいから、周知徹底すること、継続することで、顔の見える関係を大事に出来ればいいのか。顧客の囲い込みとか難しいことを言わなくても、おじさんの顔を知っている店からは万引きできないはずだし、使うまでの経緯が重要なので、単純な商品券とは全く違うことを理解させていきたい、と言う。その意味で、自立できるような補助金の出し方や行政のバックアップも違ってくる。例えばやはり事務局はいつも開いている方がいいし、相談できるコーディネーターは必要ではないかということでした。第1次と異なり、商店で使えるということにアレルギー反応を持った人もいましたが、コミュニティビジネスの考え方で、地域経済の活性化も、地域の活性化そのものだというやわらかい取り組みの必要を感じました。少しずつですが前進していることを実感した訪問でした。(山中)

きもの三京

社長 三坂 功さん

上戸田の市役所通りの大型紳士服店裏手にある「きもの三京」という和服店を訪問。地域通貨に関してお話を伺った。店舗で奥様にお願いして写真を撮らせていただき、ご主人が都合で喫茶「クロ豆」にいらっしやるということで急遽そこを会場にインタビューさせていただいた。



まずは第2次の感想をお聞きすると、「換金できるようになって商人としてはよくなった。商人は利益がなければやらないし、今回の実験で少なくとも商人も地域通貨を知ったし、関心も出た」という。しかし、オールカードやプレミアム商品券や単純な紙幣と、ゴチャゴチャで勘違いしている方も多い、とも言う。メリットは手数料もなく、商店会の活性化にはなると期待している。ただ、まだ推薦店のようなはっきりしたワッペンやシールがなかったり、使える場所としての宣伝が不足している。もっと事前の普及や啓発活動のイベントなどや原資になる資金をプールして、それも行政やロータリーやライオンズなどからの寄付を募って「地域通貨バンク」など力をつけて、敬老金などをオールで支払うなど仕組みをしっかりとすることが大切ではないか、動きが遅く、能書きが多くて、委員会が目立ちすぎで抵抗感を持つ人も出るのではないかと、いう苦言も頂戴しました。また、単発のイメージが強いが、継続性が重要で、役所も経済振興課などとも連携して経済活性化として捉え、例えば文化会館や銀行の駐車場のオールでの利用など、商店が最終出口でなく、商人も地域通貨を回せるアイデアに広がるポイントがあるとご指摘いただきました。市税の1%までは地域通貨で納入できる、また、それを市民活動に使えると

いった大きな循環型経済モデルを考えられればとお互い大いに盛り上がりました。

実際の使用例では、きもの店での使用ということでピンとこなかったが、お年寄りが孫の運



動会用の豆絞りのてぬぐいや腰紐、タオルといった小物を交換しに来たというお話で合点がいったところです。ご主人もなかなかの論客で、オールカードのポイントとの連携など、必ずしも円に換金しない方法の研究など、まちづくりへの大きなビジョンでの地域通貨の取り組みの重要性を、商店会として取り組んでいく姿勢に感心させられたインタビューでした。(山中)

笹目中のふれあい体験講座

昨年の11月6日に笹目中学校ふれあい体験講座に参加しました。一昨年に引き続いての第2回目になりましたが、こちらにも慣れてきたのか、山中講師



のリードもあり、すっかり乗りまくって27人の生徒全員が地域通貨オールを理解してくれました。

男子ばかりでしたが、元気もあり楽しい講座になりました。ゲームで理解したあとオールをどのように生かして利用するかについて、各チームを代表して生徒に発表してもらいました。その中でボランティア活動してオールを獲得して文房具店を構内に設けて回収します、オールを循環させますという回答もありました。スケールの大きい話でサッカー場をオールで造れないか？など面白い話もありました。市広報のビデオ撮影もありましたが、生徒は特別意識せず楽しそうでした。最後にオールを貰って、みんなでカメラに向かって「イエー！」で盛り上がり、めでたくなりました。

(川谷)

地域福祉まつりに参加して

2005.1.16 高本久美子

昨年同様に、障害のある方々やボランティア、多くの市民の方々の参加を得て、地域通貨“オール”のPR活動をさせていただきました。



▲体験コーナー

この日は天候に恵まれず雨。“オール”の参加するイベントはどうして雨天が多いのか？多分、私が雨女のようなようです。雨女はどうでも良いのですが……。雨にも関わらず、大盛況だった事は事実です。

体験コーナーを設け、実際に“オール”を使い、ゲームで模擬体験してもらいました。家族でいらした方、小さなお子さんも、障害をもった方も、みんな一緒にゲームを楽しみました。短時間のゲームですが、終わった時のみんなの笑顔がとても素敵で、ゲームなのに知らない人同士が本当に助け合ったかのように、優しい気持ちになっていくのがわか

大信村「どんど焼き祭り」紀行



1月9日、私たち戸田オール運営委員会は、戸田市の姉妹都市である福島県大信村を訪問した。村内各地で行われる小正月の伝統行事である「ど

んど焼き祭り」に招かれたためである。戸田オール運営委員会では、大信村の農産物を販売する「ふれあい市」を通じた縁があり、村で行われる伝統行事には、機会があればいつか参加したいと思っていた。

「あまり見ることのできないものを見せてあげますよ」と大信村役場の職員の方から言われた。「どんど焼き」は都市部ではすでに見られなくなった正月行事である。山から切り出した生木を中心に建て、その周りを、生木の竹で円錐形に組み込んだ「物体」が、雪で覆われた田んぼの中にあつた。約4mの威容であり、中に正月飾りを入れ、「物体」ごと御神火で燃やすのだ。その炎であぶった餅を食べると1年間無病息災で過ごせるという。



この伝統行事は、山の中腹にある神社でのお祓いから始まる。お祓いが終わると、村の子供達が神主から御神火を貰い受け、火を消さないように注意しながら田んぼまで運ぶ。その御神火の前で巫女姿の小学生の子供達が、邦楽に合わせて「舞い」を披露してくれた。

示し合わせたように、巨大な火柱が上がり、生木の竹が破裂する音が聞こえた。村の人達は「本当の爆竹」と言う。折からの粉雪と盛大に舞う火の粉が相まって、幻想的な風景が創り出され、見とれているしかなかった。

「祭り」の後、村の人から宴席へ招待された。もてなしはとても温かく心のこもったものだった。「来年は、戸田の子供達にもいっぱい来てもらって、一緒にやろうよ」と誘っていただいたのだった。

(安部)

りました。ゲーム終了後、参加された方全員に運営委員会より、10オールを差し上げました。みんなの笑顔を見て、改めて“オール”っていいなあって思うひと時でした。“オール”で感謝の気持ちと一緒に、人と人をつなぎ、コミュニティを活性化できたらいいですね。戸田市の皆さんにもっともっと知ってもらい、お役に立てればと思いました。



▲市民情報マップ

スプリングオールライブ

O・T・O・D・A開催



戸田を音楽のある明るいまちにしよう、音楽でコミュニケーションをはかろうと、おととしの秋から有志ボランティアの企画・運営で毎週日曜(13時～)に戸田公園駅前で行われているO・T・O・D・A(オープンスタイルミュージック戸田)。いまや戸田公園の“名物”となりつつあるミニライブです。

この1年間に出演したアーティストが大集合し「集大成」とも言えるステージが、昨年に引き続き今年も開催されます。

日時 4月2日(土) 13時から

場所 戸田市文化会館

入場料 1500円 小学生以上(税込)
戸田市文化会館ほかで販売中

問い合わせ O.T.O.D.A事務局 048-433-5644

サポートセンター ウイング

戸田市新曽131 電話・FAX: 048-441-9153

障害児学童保育事業部「ぼけっとクラブ」

「ぼけっとクラブ」は2004年4月、戸田市で初めてできた障害児学童保育室です。現在、養護学校や市内特殊学級に通う小1から中1までの13名が在籍しています。放課後や長期休暇中を地域で豊かに過ごせるよう、

通常は各学校の下校時から18時まで、
長期休暇中は一日保育と称し、10時から16時まで

活動しています。

子供たちが、家庭以外の集団生活の中で、より豊かな社会経験を通じて充実した時間を送れるように頑張っています。また、地域の方々にご理解いただけるよう、これからも努力していきますので、どうぞ温かい目で「ぼけっとクラブ」を見守ってください。

「安心・安全」を届けたい

戸田市商店会連合会 森 秀夫

震災疎開パッケージ

神戸の教訓と安心・安全を届けるということ、万一の時、お年寄りや、子どもなどの弱い人を避難させたい。という気持ちから商品化されました。購入は中学生以上 5250円、小学生以下 3150円で1年間(購入年の12月31日まで)災害救助法が発令される地震、津波、火山噴火で購入者が被災すると30万円(宿泊費25万円、交通費5万円。小学生以下は半額)の範囲内で提携先に避難出来るというものです。被災しなかった場合、次年度の更新をされた方に、提携先から3000円相当の「ご無事で何より」の特産品が届きます。しかし、知らない場所へ避難するのは心細いものがありますが、そのために、購入者には割引価格で参加出来る「現地視察の旅」という、普段から交流する機会を設けています。購入して無くても参加出来ますので、町会、グループなどの研修旅行としてもご利用出来ます。一昨年参加しましたが、避難先の人柄や自然にふれると心がゆったりとします。

避難先は全国で14か所あります。ホテルの単独参加という例もあり、いずれも万一の時には被災者を優先的に受け入れてくれます。



▲特産品の例

昨年未で、戸田では6名が購入、全員が更新され、いま特産品が届いて来ます。いままでにない発想から生まれたこの商品を知らない方が多く、1月16日の読売新聞埼玉版、1月17日のニッポン放送、ケーブルテレビでの紹介などもあり、2名の新規購入や、市内を始め県北部からの問い合わせも来ています。

この商品の目的には震災・防災を切り口に他地域との交流を進めながら、地域内の交流を更に深めること。商人として「安心・安全」を届けることについて考えることもあります。

商店街という特徴を活かし、震災の情報が動き、特産品を動かそうとしたとき、人が動き、地域間交流が始まりました。地域を越え、お互いに協力しようと手を結んでいます。

お問い合わせは、戸田市商店会連合会事務局まで 441-2617

<http://www.shoutengai-sinsai.com/> 全国商店街震災対策連絡協議会に詳細があります

町会めぐり、人めぐり Vol. 3

～南原町会長 阿部 健寿郎さん～

南原町会は、防犯活動の先進地域です。



戸田市の南、漕艇場の北側に接している南原町会は住宅、学校、工場、倉庫などが混在する地域です。ここ数年マンションの建設が目立ち、町会内における全世帯のうち、今では、マンション居住世帯が過半数を超えています。住民が増加傾向にあっても、町会への加入率が高く、「加入していない世帯を探すのが難しい」ほど、地域住民の結びつきが強固です。

こうした良好なコミュニティの中で、南原町会が

最も力を入れている活動が防犯パトロール。町会の防犯パトロールは、現在、各町会の方々が熱心に取り組まれています。南原町会はどこよりも早く、町会の活動として取り入れました。平成15年4月から開始され、週2回に亘る頻回な活動の結果、「引ったくり」や「車上荒らし」などの犯罪が、「激減した」効果がありました。「住民の方々の意識が高まった」効果があったことは、何よりもうれしいことと阿部町会長は語りました。

「次は防犯の情報を盛り込んだ防犯マップを作りたいですね。そのために今は勉強中です」と、南原町会の防犯に対する取り組みはまだまだ続きます。(安部)



▲南原町会 防犯マップ

漕艇場からこんにちは！ Vol. 3

明治大学端艇部訪問記

「ボートの街・戸田」を象徴する戸田オリンピックボートコースには、23の大学と2つの実業団のボート部艇庫と合宿所が並んでいる。ここ数年、各大学の艇庫建て替えブームで風景は様変わりしている一方、不況のあおりで実業団の艇庫が減少しているようだ。明治大学も平成14年に建て替え、弊衣破帽の合宿所というイメージはない。学生も35名が寄宿しているが、女子部員7名に連日15人程度の女子マネージャーが通ってくるというから、華やかな若者の倶楽部という雰囲気もあるようだ。

創部100周年という伝統の歴史も、明治38年、事故で廃止という立教中学ボート部から譲り受けた端艇に発するという縁も興味深い。この「端艇」という言葉は、いわゆる救助用のカッターボートのことで、最近ではあまり使われていないという。「漕艇」「ボート」というのが一般的なようだが、伝統校にこの名前を使っている学校が多いらしい。足立美穂さんをはじめオリンピック選手や国体の選手も輩出し、企業や行政の受け皿作りなど課題も多いが、日本ボート界への人材の供給源としての存在意義もある。日本新人選手権エイトで優勝し、今年地元南稜高校からスポーツ推薦で新人が入学。4月には49回目となる日大・立教との三大学レガッタが開催される。「伝統の中の革新」を指針とする“明治魂”鍛錬の場所でもある。地域通貨の図柄にもなっているボートを近くに見られる艇庫を訪問した。

さて、戸田にいながら治外法権の場所のような気がしていて、あまり近寄ったこともない身としては、入口がわからず少し遅れて合宿所に到着したところ、お待ちいただいていた角久仁夫(すみくにお)監督に温かく迎えられた。角監督は見るからに「明治のボートマン」らしくざっくばら

監督 角 久仁夫さん



ん、質実剛健な方で、話は明大ボート部の紹介にとどまらず、戸田という街とボート部の学生や合宿所という拠点の重要性を考えさせる大変有意義なインタビューとなった。私が縁遠いと感じるように、監督や学生たちにとっても街からの、あるいは市民からの交流が少ない、せつかくの一期一会で戸田に住み、暮らし、巣立ったあとも第二の母校としての思い出の地にするには寂しい限りだという感想だった。この合宿街には400から500名の学生が暮らし、それぞれの大学のサテライトキャンパスとしての大変な資源を全く有効利用していない、もったいないことをしていると言うことで意見が一致し、話は、この資源としての拠点の見直しを含めて、4年間での人生経験をもっと市民との、大人との交流の中で豊かにさせたいという教育者の視点と、ボートの街という価値をどう活かせるのか、大学と行政・市民との協働の可能性というまちづくりの視点にまで、夢のような構想まで広がった。

また、明治だけで月に70万円以上も食材を購入し、大規模な消費場所であり、帰宅する女子マネージャーが遭遇する防犯問題や、世界選手権に対応できないコース施設の課題、体育指導員など地元密着のスポーツのあり方、中・高校ボート部という人材育成、スポーツ科学、怪我や事故への対処だけでなくスポーツ医学や専門病院設置など、戸田のまちづくりに貢献できる拠点としての合宿所を考える、いい契機になった。一度、意見交換として、お互い胸襟を開いて酒を酌み交わすのも面白いと思い、ひょっとすると合宿所は戸田の宝かもしれないと感激した訪問でした。

(山中)

市民活動フォーラム

市民活動に地域通貨はいかが

主催 戸田市市民活動推進委員会・地域通貨戸田オール運営委員会・戸田市
後援 戸田市社会福祉協議会・笹目コミュニティ協議会
美女木地区まちづくり協議会

今回、戸田オール運営委員会と市民活動推進委員会、市の三者が協働して市民活動フォーラムを開催する運びとなりました。市民活動推進委員会の活動課題のひとつに、地域通貨があります。すでにある地域通貨・戸田「オール」を、市民活動の中にどう取り入れていけるのか、また、「オール」は市民活動を楽しむことができるのかなどを話し合いたいと考えています。

ぜひ、皆さんもこのフォーラムにご参加ください。

平成17年3月12日(土) 13:20 ~ (受付開始 13:00)

会場 戸田市役所・大会議室(5階)

参加費 入場無料 託児室あり(託児は予約が必要です)

問い合わせ 市役所コミュニティ推進課 441-1800(内線 651)

基調講演 「市民活動の中での地域通貨～その役割と効能～」

演者 小池 清一 氏 ぶぎん地域経済研究所主席研究員

パネルディスカッション

「市民活動グループ間の協働」 ツールとして「オール」は使えるか？～

堀口吉四孝さん(高島平地区小地域ネットワーク委員長)、中島孝雄さん(戸田オール運営委員会委員長)

高橋邦彦さん(戸田市市民活動推進委員会委員長)、青塚和子さん(社会福祉協議会ボランティアコーディネータ)

小池清一さん

★★★★ **なんと、いま話題の**
埼京戦隊ドテレンジャーも登場! ★★★★★

【法人会員】 ニッケン建設(株)、戸田中央総合病院、ファミリーマート田中上戸田店、(有)古河屋(こが屋文具)、(株)平和不動産、戸田市商店会連合会、戸田市商工会、戸田市商業協同組合、戸田中央産院、中島孝雄税理士事務所、サポートセンター・ウイング、美笹商店会、(株)全通、(有)セルフ、(株)アイ・ライフ、(有)三京、戸田中央リハビリテーション病院、須藤歯科医院 (敬称略・順不同、平成16年11月4日現在)